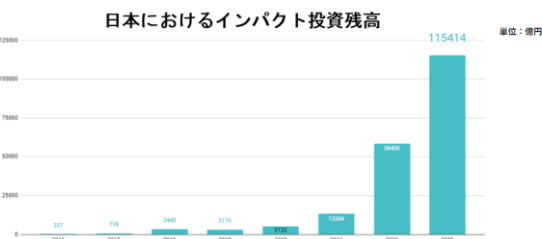


改訂版「農山漁村」インパクト可視化ガイドンス

- 農山漁村では急速な人口減少による各種課題が生じており、その解決に向けては**外部の企業等との協働が必要**。
- 近年、大企業・金融機関を中心に、**ESG、SDGs、インパクト等が重視**されている状況を踏まえ、農山漁村における企業等の資金拠出・人材派遣等を促すため、令和6年度に、農山漁村の有する多面的価値を「インパクト」として可視化する「『農山漁村』インパクト可視化ガイドンス」を作成。
- 今後、インパクトの考え方や測定・マネジメント（IMM）手法等を精緻化していくことで、**インパクトの創出に向けた取組をいっそう推進**していくため、令和7年度に当ガイドンスの改訂を実施。

「インパクト」に対する資金流入の増加

我が国においても、**企業等におけるインパクトに対する意識の高まり**から、財務リターンの獲得に加え、社会・環境的課題の解決に寄与する成果（インパクト）の創出を同時に目指す**インパクト投資が急速に拡大**。



上記の数値は、アンケート調査に基づき算出されたものであり、必ずしも日本企業等がインパクト投資市場全体の総額ではない。また上記の数値はあくまで先行年度であり、投資実績は当該年度に集約される前年までの数字を示す。出典：一般財団法人社会実証投資財団「SDG+ 銀行/VC/国内機関投資家調査」日本におけるインパクト投資の現状と課題（報告書）（2016年度、2023年度）

企業等のマテリアリティと農山漁村の多面的機能

多面的機能を有する農山漁村の衰退は、その機能の喪失を招き、災害リスクの増大や環境問題の深刻化など、**企業活動の継続性に悪影響**をもたらすことから、農山漁村における課題解決は**企業等のマテリアリティ（重要課題）**とも深く関わっている。



農業・農村の有する多面的機能

日本学術会議「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について（答申）」（平成13年11月）

農山漁村の課題解決を通じて創出され得るインパクト

地域経済の活性化

農山漁村の持続可能な生活環境の維持

ネイチャーポジティブ

気候変動の緩和

気候変動への適応

ウェルビーイング向上

農山漁村における災害レジリエンスの向上

※「インパクト」とは、事業や活動の結果として生じた、社会的・環境的な変化や効果（短期・長期間わない）を指す。

企業等にとっての「リスク」類型

①消費市場への影響

農山漁村の人口減少は地域の消費市場の停滞を招くとともに、地域固有の産業、文化等の喪失を招くおそれがある。

②バリューチェーンへの影響

原料を農山漁村の生産物に依存する場合、農山漁村地域の衰退は都市部企業にも影響を及ぼすおそれ。

③システミックリスク

農山漁村の衰退に担い手不足や災害等が重なり、一企業では防ぎきれない影響への拡大していくおそれ。

「リスク」への対応事例

JALグループ

農山漁村地域の生物多様性の喪失は、**航空運送事業のサステナビリティへの重大なリスク**であり、観光資源の損失や旅客数減少により事業に影響しうると整理。

そこで、地域と連携し、**サンゴ礁の再生プロジェクトやマングローブの植樹ツアーの企画、野生生物の密漁・密輸対策**を実施。



インパクトの測定・マネジメント（IMM）プロセス

インパクトの創出に向けては、取組を行う関係者間で意図するインパクトについての認識をそろえることが重要。そのためには、以下のような**インパクト測定・マネジメント（IMM）プロセス**を進めていくことが必要。

①インパクトの事前評価

アクティビティから期待される影響を目標として掲げ、目標に至るロードマップを策定し（戦略）、モニタリングすべき指標を定める

②インパクトマネジメントの実践

インパクト指標をモニタリングしながらインパクト戦略を行う

③インパクトの情報開示

モニタリングの結果について情報開示する

今後の検討事項

企業等の取組を金融機関や投資家に対して訴求できるよう、農山漁村の課題解決に貢献する取組がインパクトの創出につながっていることを証明する「**インパクト証明書**」制度を創設予定。

インパクトの測定・マネジメント（IMM）プロセスについて

- 農山漁村における課題解決に向けた取組に対して資金拠出等を行っていく上で、関係者間で創出を意図するインパクトについて認識をそろえるため、以下の「インパクト測定・マネジメント（IMM）」のプロセスが必要。
- IMMの各段階において、自治体側と課題解決に取り組む側とが対話を重ね、共通認識を持つことが鍵となる。

① インパクトの事前評価

★ 目標と戦略を定める

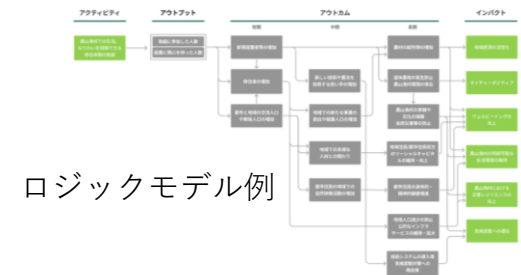
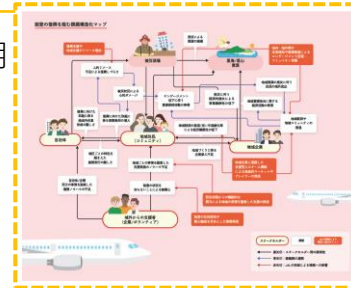
- ✓ どのような社会的、環境的な変化を生み出すことを意図（インテンション）しているのかを明確化
- ✓ 取組がなければ生じえなかった変化（アディショナルリティ）の観点を踏まえる

★ ロジックモデルを策定する

- ✓ 課題の特定を起点としつつ、目指すインパクトからバックキャストして検討

- (1) 課題の特定・構造化
- (2) インパクトの検討
- (3) アウトカムの検討
- (4) アウトプットの検討
- (5) アクティビティの検討

課題構造化マップの活用



ロジックモデル例

★ 指標の設定

- ✓ 定量的・定性的に設定して事業を開始

② インパクトマネジメントの実践

- ✓ 設定したロジックモデルに基づき戦略を実行
- ✓ 客観的なデータに基づいて評価を行うことにより、見かけだけのインパクトを誇張する「インパクト・ウォッシュ」を防止
- ✓ 組織全体としてIMMプロセスを適切に実行する体制を整備するとともに、IMMプロセスを継続的に改善

③ インパクトの情報開示

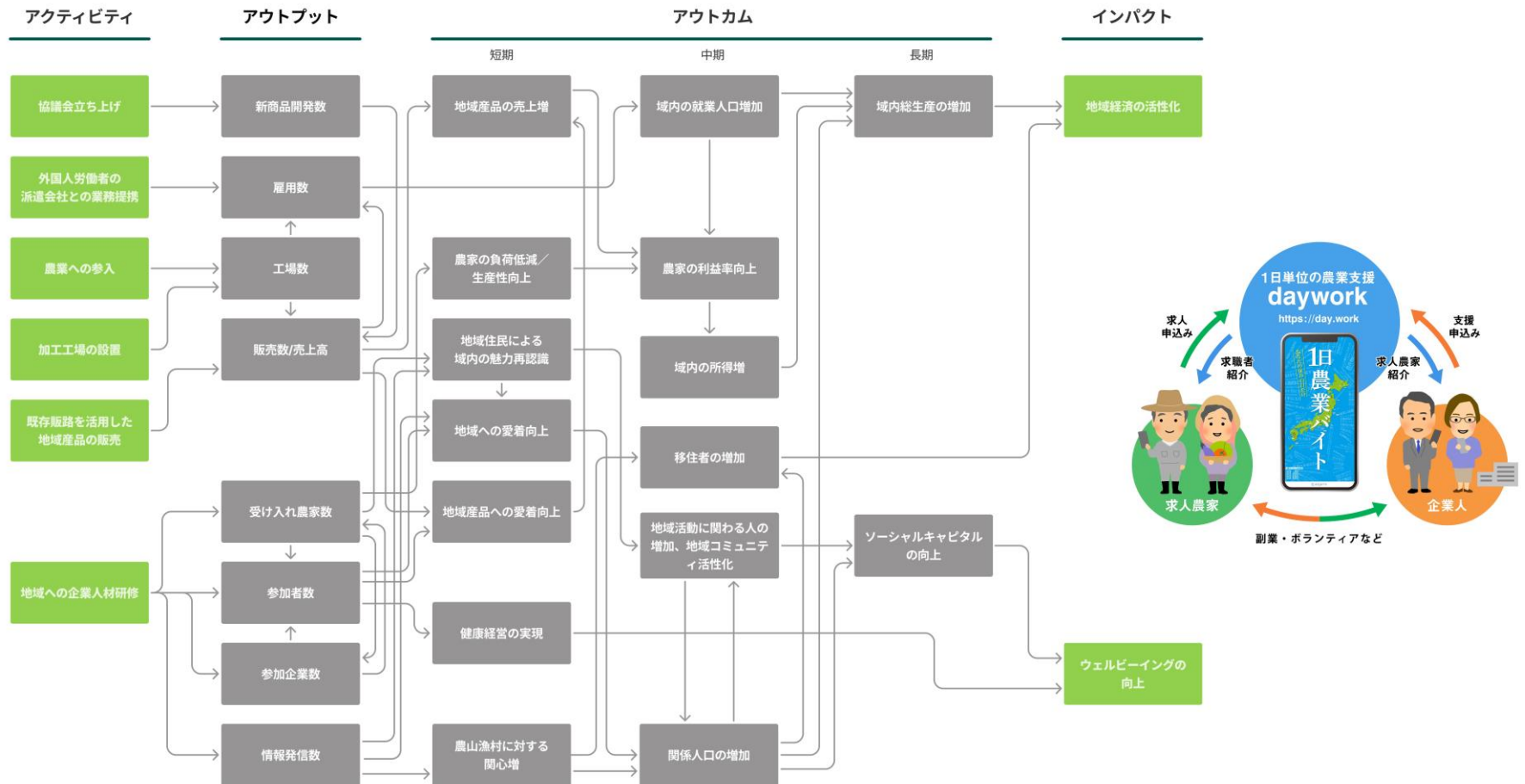
- ✓ 企業等の中長期的な価値創造の方向性や経営手段を伝える
- ✓ サステナビリティ情報開示に関する整備が進む中で、非財務情報を財務情報と整合的に説明する必要
(取組がマテリアリティや経営戦略の中でどのように位置付けられているか、中長期的なリスク低減や機会創出にどのようにつながると考えているかを示すことが有効)

インパクト測定・マネジメント（IMM）におけるロジックモデル作成事例①

ウェルビーイング向上に向けた取組（東日本旅客鉄道株式会社）

- 課題：農業分野における慢性的な担い手不足や担い手の減少
- 取組：スポットワークアプリ「daywork」を活用した労働力確保
- インパクト：農業分野に関わる企業人材が増えることが**企業の健康経営の実現**に貢献し、**ウェルビーイングの向上**につながる

ロジックモデル



インパクト測定・マネジメント（IMM）におけるロジックモデル作成事例②

地域経済の活性化に向けた取組（東京海上アセットマネジメント株式会社ほか）



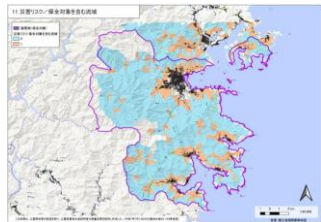
- 課題：アオウミガメ等の採食による藻場の減少
- 取組：企業間で連携した保護柵の設置やウミシヨウブの移植、小学生に向けた環境教育等の実施
- インパクト：企業連携による地域への支援を通じ、関係人口の増加や地域内交流の促進に貢献することが、地域経済の活性化につながる

農山漁村地域の持続可能な生活環境の維持に向けた取組（しきしまの家）



- 課題：地域活動の担い手不足や農地の荒廃、生活基盤の維持
- 取組：地域新電力との連携による域内循環モデルの構築や、ボランティアのマッチングを基盤とした生活基盤と生業づくり等の実施
- インパクト：生活に必須のインフラやサービスが維持され、また地域活動の担い手が確保されることが、農山漁村地域の持続可能な生活環境の維持につながる

ネイチャーポジティブに向けた取組（三重県尾鷲市）



- 課題：森林環境の劣化に伴う、生態系サービスや防災機能の低下への懸念
- 取組：生態系への影響を重視した選木・伐採を行う「ネイチャーポジティブ林業」の推進、森林ゾーニングマップの策定・活用による戦略的な森林管理等の実施
- インパクト：森林の多面的機能が維持・向上されることがネイチャーポジティブにつながり、森林の新たな環境価値・経済価値を創出することにつながる

農山漁村地域の災害レジリエンス向上に向けた取組（日本航空株式会社）



- 課題：能登半島地震・能登半島豪雨の発生を契機とした、地域の過疎化・高齢化の進行
- 取組：社内ベンチャー制度を活用した現地型教育研修やフィールドワーク型プログラムの実施
- インパクト：災害支援に係るリソースが増加することが、農山漁村地域の災害レジリエンス向上につながる